

さいたま市 退職校長会 会報

発行責任者
加々美 健一

増加する不登校児童 生徒への対応

さいたま市退職校長会

副会長 佐藤 憲克

昨年の十一月末、地元小中学校のコミュニティースクールの委員会の折、不登校児童生徒の情報提供があり、課題改善のための熟議が行なわれた。

昨今の学校現場の多忙化に加え、新型コロナウイルスの影響もあってか、全国的に不登校児童生徒が増加しているようであるが、「不登校」と言っても内容や状況は様々のものである。

不登校児童生徒や家庭への支援等について、学校・家庭・地

域で共通理解を図ることは有益ではあるが、現実的にはかなり困難を伴うようである。

現在、学校にはスクールカウンセラーやさわやか相談員等が配置され、きめ細かな相談や支援がなされているが、不登校の状況改善は遅々としている。

不登校の原因や背景には、社会や家庭生活の変化や、人々の価値観の多様化等、複雑な要素が考えられる半面、「集団生活に馴染めない」「勉強が嫌い」「生活の乱れ」「自律神経の不調」「先生に対する恐怖心」「学校生活の中に居場所がない」等、過去の時代の不登校状況と共通するものも少なくないようである。

「不登校児童生徒は問題だ」という認識の下に対策を講じ、対処すると、状況改善はおろか、悪化を招きかねないように思う。

児童生徒の「教育を受ける権利の尊重」「心身の柔軟な年齢時の集団生活の重要性」等の認識の下、寛容な態度で本人と保護者に寄り添い支援することが、改善のカギを握っていると思う。

この支援を行うには、教職員自身の心身のゆとりが求められる。就学時に学校教育に馴染めず不適応・不登校に陥った児童生徒が、大人になって希望する時、相応の教育が受けられる社会状況の構築も重要であると考える。

目次

◇巻頭言

さいたま市退職校長会

副会長 佐藤 憲克

1

◇令和四年度

さいたま市現職・退職校長
教育推進協議会

教育推進協議会

○教育推進協議会 概要

○研究 発表 要 旨

蓮沼小学校 校長 白倉 秀樹

大宮八幡中学校 校長 小林 正美

退職校長会 羽島 隆夫

2

3

4

5

6

◇教育情報

さいたま市の教育

「コミュニティ・スクール
市立全校で実施」

さいたま市教育委員会

6

◇班だより

○浦和班・三村 昇 ○与野班・佐々木克己

○大宮班・溝口 正巳 ○岩槻班・岡野 功

7

8

◇談話室 〓私の一言〓

大塚 彰・山崎 峻

富樫 政宣・笹原 秀之

山崎 和文・菊地 豊

小島 和男

9

10

11

12

◇叙勲受章者・ご長寿者 一覧表

◇編集後記

題字…加々美 健一



— 佐藤 憲克 副会長 —

令和四年度さいたま市 現職・退職校長教育推進 協議会 概要

令和四年十一月四日（金）別所沼会館にて現職校長二十三名、退職校長二十七名の参会者を得て開催された。ご来賓は、さいたま市教育委員会教育長細田眞由美様、埼玉県退職校長会会長石田孝作様の二名。

一 開会行事

佐藤事務局長の司会進行、小学校校長会三島会長の開会のことばにて協議会が開始された。

加々美会長の主催者あいさつ

【概略】三年ぶりの開催にあたってはコロナ感染者数の増減で大いに悩み、皆様方にご迷惑をお掛けしました。本会は彩の国教育の日の協賛事業で、現職・退職が一堂に会する貴重な会です。県・市教育の推進の一助にしたいだけだと思います。来年六月二日に県退職校長会定期総会が本市で開催され、市退

職校長会が担当します。皆様方のご協力宜しく願います。

細田教育長の来賓あいさつ

【概略】さいたま市教育の施策と子どもたちの活躍について報告します。施策①GIGAスクール構想。二〇二〇年度に子どもたちに一人一台、十万台の情報端末を用意し、百六十八校のネットワークを高速大容量に構築しました。本年度は、更に進化させた形にと、さいたま市スマートスクールプロジェクトをスタートさせました。②不登校等児童生徒支援センターを本年四月に開設し、登校できない子どもたちをオンラインで学びに繋げる取組を開始しました。③中学校部活動の新しいあり方について模索をしています。子どもたちが豊かに地域で学べるスポーツ文化の環境を構築していきたいと思っています。

全国学力学習状況調査では、今年度も全教科で全国平均を上まわり、政令市では小中合わせ

ると一位という結果でした。本年度の子どもたちの運動面・文化面における様子は、田島中柔道部・大砂土中水泳部の全国大会優勝をはじめ、両面にわたり多くの学校の子どもたちが様々な大会の全国大会等に出場し好成績を残す大活躍でした。引き続きさいたま市学校教育を支えていただけるようお願いいたします。

県・石田会長の来賓あいさつ

【概略】現職の先生との連携を密にするという目的のこの協議会は昭和四十七年から始まって五十年になり、埼玉県だけの実施です。教育問題等を情報としてお話をします。①定年の引き上げについて、これから制度が変更になっていく。②教員免許更新制度の廃止について、新しい研修体制を今後考えていくこととなる。③デジタル教科書の実施について、二〇二四年より英語からスタートされる。④小学校教員応募倍率が低くなっている。質の低下を防ぐ為、採用

試験の時期を早めにする話もされている。⑤運動部活動の問題。少子化等で学校独自で競技が不成立、どう統合するか等、地域に移行しながらやっていくという動きである。⑥県退職校長会のホームページを是非ご活用ください。⑦来年度の県退職校長会定期総会、お世話になります。すが宜しく申し上げます。

二 研究発表・研究協議

研究部萩原・野口両幹事により進行される。（以下後述）

三 閉会行事

中学校長会富田会長の閉会のことばにて協議会を終了とした。

（田中秀信）



研究発表 要旨

◇小学校教育の諸課題

「明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進」

蓮沼小学校

校長 白倉 秀樹

一 はじめに

多様な教育課題に対応し、児童に未来を突き進む力を身に付けさせるために、何が必要かを学校は明確にイメージしなければならぬ。また、新たな取組を教職員が自分のものとして実践できなければ、児童に主体的・協働的な深い学びを实践させることもできない。校長として、子どもの未来を見据えた学校経営ビジョンの策定をすることは重要な課題である。



— 白倉 秀樹 校長 —

二 研究のねらい

児童や保護者は、地域を愛する精神を十分にもっているが、新たな発想を基にした行動や変革を行うことはあまりせず、受動的な行動が多い。学力面では平均的であるが、粘り強く取り組むことを苦手とする面がある。そこで、次の三点を柱として取り組む。

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
② 教職員の学校経営に対する参画意識の向上
③ 保護者の理解を得た学校行事の実施

三 研究の概要

① 授業改善の観点から

教育端末を使いこなし、深い学びを実現するため、エバンジェリストだけでなく校長も含めたサポート体制を構築し、誰にでも相談できる組織体制とした。このことで、児童同士の考え方の交流や学習記録の幅が広がり、学びの記録の振り返りを的確に行

うことができた。また、年間二回、校長による授業参観を実施した。参観後には、授業実践において不明だった点を直接校長に確認する教職員が増え、校内に授業実践についての共通理解が加速した。

更に、昨年度から市教委「個別最適な学びの実践」モデル校となり、学習履歴の集約方法やデータ化された思考ツールの授業内利用、共同編集と学びの接続の仕方などが教職員間で共有され、個別最適な学びの実践が具体的なものとなった。

② 教職員の参画意識の向上

年度当初に学校経営方針の伝達時に注目すべきキーワードを設定し、全教職員に周知させた。本年度は、キーワードを「あいさつ・積極的な生徒指導・主体的な学び・報告連絡相談見届けの徹底」とし、人事評価の目標設定を行った。面談時には、教職員一人ひとりの考えを傾聴し、校長の各教職員に期待する個別ミッションを伝えたことで、学校

組織に参画する意識が高まった。

③ 保護者・地域との連携・協働

学校だよりに加え、学校HPに校長から、国や市教委の教育施策にあわせた蓮沼小の取組や校長の考えを披露し、保護者や地域に積極的に情報発信を行った。次年度の教育活動の変更に ついても、九月から教職員、保護者、学校運営協議会、地域の順で根拠を明確にし、時間をかけて丁寧に説明を行うことで、混乱を招くことなく関係者の理解を得ることができた。

四 研究のまとめ

子どもの未来を見据えた明確なビジョンの策定には、何事も根拠を明確にし、十分に時間をかけて説明することが必要だと実感した。子どもたちの未来を見据えた学校経営は、あらゆる分野や場面での成果や課題が根拠となり、次の新たな学校経営方針が作られる。不変的なものも大切にしながら取捨選択を行うことが重要であると考える。



— 小林 正美 校長 —

◇ 中学校教育の諸課題
 「ESDの考えを生かした、自ら学び、考え、行動する生徒の育成」
 大宮八幡中学校
 校長 小林 正美

一 主題設定の理由
 本校のESDに関する研究の取組は、「国際理解・多文化共生」「地域・環境・人権」「授業の中の取組」の三つの柱を立て、それらの観点でJRC活動や服のチカラプロジェクト、地域と連携した活動に学校全体で取り組み、地域との絆を深めるとともに、地球規模の課題を認識し、中学生として今何をしなければならぬのかを知り、考え、行動することにつなげている。

二 研究の視点と実践

本校は、市教委から研究委嘱を受け、年度ごとに重点を置く教科を設け、段階的に取り組んだ。また、本校のESDは、ESDカレンダーに基づいて教育活動全体で行っている。

◎特別活動（R元）

○社会的・職業的な自立に向けた資質・能力の育成
 ・職業人に学ぶ。立志発表会等

◎総合的な学習の時間（R2）

○よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成
 ・SDGs新聞記事学習。ESDと関連させたSTEAMSTIMEの実施等

◎道徳科（R3）

○道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度の育成
 ・ESDの考え方を意識した授業の実施等

◎各教科（R4）

○生きて働く知識・技能の習得と活用

・教科の特性とSDGsを意識した授業実践等

三 本校のESDの取組

○服のチカラプロジェクト

・ユニクロの社会貢献活動に協力して、使わない子ども服を、服を必要とする難民地域へ送る活動で、近隣の小学校とも連携して服を回収している。

○EFGsの取組

・SDGsを参考に、各専門委員会と生徒会本部で、大宮八幡中学校をよりよくするための8つの目標を決め、全校生徒で取り組んでいる。

○JICA世界の笑顔のために

・青年海外協力隊の活動に協力して、使わなくなった算数セットやスポーツ用品等を回収し、必要としている地域に送っている。送られてくる手紙から世界の現実を知ることができる。

○ESD講演会

・毎年、講師の方をお招きし、講演をしていただくことで、世界で起きている社会問題

や、自分たちの足元から行動できることを学校全体で考える機会を設けている。

四 研究のまとめ

○成果

・様々な活動を通して、SDGsについての知識をより深めていくことができた。また、社会問題に対して、多面的・多角的に考えて、新たな課題や身の回りの出来事と比較することができた。

・各学年の授業において、自分や相手の考えを発表・共有したりする話し合い活動を多く取り入れることで、「自分の考えをまとめる」「お互いの意見を共有することが得意な生徒が増えた」

●課題

・自分が日頃行っていることが、持続可能な社会の実現にどの程度結びついているのか理解させるためにも、より具体例を示し、「私たち中学生ができることは何か」を今一度考える手がかりを教育活動に取り入れていく必要がある。

◇生涯学習の諸課題

「これからのICTの活用について」

さいたま市退職校長会

羽島 隆夫

退職校長会にも関ブロ大会がある。先日（十月二十七日～二十八日）深谷グランドホテルを中心に開催され、私が提案者を務めた。本日は、これに触れながら以下に述べる。

一 関東甲信越地区退職校長会 連絡協議会の報告

協議題は（一）～（五）の通り。

（一）入会率の低下の現状から「退職校長会の魅力」をどのように考えているか。

（二）近年、退職校長会の途中退



一 羽島 隆夫 会員 一

会者も増加している。その原因としてはどのようなことが考えられるか。

（三）定年制の変化に伴い今後の退職校長会の運営をどのように考えているか

（四）退職校長の世代間では、デジタル化の対応にどのような違いがあるのか。その違いに対応するため、具体的にどう取り組めば良いか、また課題は何か。

（五）今回のコロナ禍、定年制の変化に伴い各事業の実施、継続等に対し今後の活動をどのように取り組もうと考えているか、また、課題は何か。

事前にこの協議題に関わって六十代～八十歳以下の退職校長（百七十二名）を対象にICTに関するアンケートを行った。その結果の一部だが、スマートフォン所持率九十二・四％、パソコン所持率九十七・七％だった。

二 これからはデジタルと切り離せない社会に

便利さのかけにある危険をどこまで認識して使っているか心配している。

三 定年後に注意すべきインターネットの活用

ネットの危険がたくさんある。きわめて怖い社会の中で便利さをどこに求めるか考えなければならぬ。

（一）急増する偽りサイト被害

①本物そっくりのホームページ
②ワンクリックで不当な請求を受ける。（詐欺サイト）

③詐欺サイトの被害事例

④詐欺サイトを見分ける方法
⑤日本語として不自然な表現 ↓無視する。

○偽ホームページに連絡先がある。 ↓すぐに連絡せず送信元を確認する。

⑤迷惑メールについて
（二）セキュリティ対策

①ユーザーID、パスワードの
使いまわしはしない。

②メール内の添付ファイルは開かない。
③セキュリティソフトを必ず導入する。
（三）LINE
便利だが、秘密の話が漏れてしまうこともある。便利さの裏に危険あり。皆さんの学校が大丈夫か確認を。今までのメールと機能がちがう。使い方を確認する必要がある。

四 これからも元気に過ごすために
健康長寿の鍵は七十代に。老いを遅らせるのは七十代の生活次第 具体的には、（一）ICTを使う。（二）働けるうちは働く。（三）歩く。（四）よく食べる。（五）ソフトランディングを。（六）運転免許を手放さない。（ただし、自己判断をしっかりと）

おわりに

定年後はソフトランディングを。そして、「七十歳は老化の分かれ道」を意識してこれからの行動を考えたい。

教育情報 コミュニティ・スクール 市立全校で実施 さいたま市教育委員会**【学校と地域が連携・協働するコミュニティ・スクールの市立全校実施】**

社会が複雑・多様化し、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、学校が抱える課題も多岐に渡り、地域においても人と人とのつながりが希薄化するなど、学校と地域がパートナーとして連携・協働する組織的・継続的な仕組みが必要となっている。

こうした背景のもと、本市では学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し連携・協働する「コミュニティ・スクール」を令和元年度7校で開始し、順次実施校を拡大しながら推し進め、令和4年度には全ての市立学校168校で実施する運びとなった。今後、コミュニティ・スクールを推進することで、学校が地域の中心となり、地域が学校を育て、学校が地域を育てる、学校を核とした持続可能な「スクール・コミュニティ」へ成長することが期待される。

【学校運営協議会の機能・委員の権限と責任】

コミュニティ・スクールにおいて設置される「学校運営協議会」は、校長、保護者、地域住民等で構成された、学校運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関であり、学校運営の改善と児童生徒の健全育成を目的としている。また、学校運営協議会は「校長の作成する学校運営の基本的な方針の承認」「学校運営に関する意見の申出」「教職員の任用に関する意見の申出」という3つの機能を有している。委員は校長の推薦を受けて教育委員会が任命・委嘱する非常勤の公務員であり、学校運営に参画する権限と責任を有している。従前の学校評議員制度が、校長の求めに応じて学校運営に関する意見を個人として述べる制度であることと比べて、この点が大きく異なっている。

【子どもの未来、地域の未来をつくる「さいたま市コミュニティ・スクール」】

コミュニティ・スクール全校実施元年である今、さいたま市教育委員会では、これまで多くの先人の方々の熱意や尽力により培われてきた「スクールサポートネットワーク」（地域学校協働本部）と、新しい制度であるコミュニティ・スクールを有機的・一体的に推進できるよう学校を支援する体制を整えた。また、学校・家庭・地域共通の思いを掲げた「横断幕」（下記掲載）を全市立学校に掲示するなど、市民等への積極的な広報活動を展開し、全市域において機運を醸成している。

子どもたちが、地域の一員として「故郷（ふるさと）さいたま市」を愛する心をはぐくみ、未来の地域社会の担い手として、さらには、グローバルな視点も持ち合わせた「世界の創り手」として活躍できるよう、「地域とともにある学校づくり」に邁進してまいりたい。



子どもの未来、地域の未来をつくる
「さいたま市コミュニティ・スクール」



さいたま市教育委員会

班だより

浦和班 三村 昇

さいたま市浦和退職校長会は今年度八名の新会員を迎え、二百十四名でスタート。前年度に引き続き、「会員の親睦と福祉の増進、教育の振興に寄与」をテーマに、新型コロナウイルス感染に最善の注意を払いながら活動を進めています。

与野班 佐々木 克己

さいたま市与野班退職校長会は、今年度一名の新会員を迎え、桑原裕通会長以下全五十名でスタートしました。

本会の主な事業は、年度当初の定期総会、秋の研修会、年末の現職・退職校長教育懇談会の三つです。また、これらの準備を中心に幹事会を年四回開催しています。

しかし、今年度も、コロナ禍の影響により昨年度と同様、事

◇総会・長寿祝賀会

並びに新会員歓迎会

・五月十五日(日)

市教委学校教育部長をお迎えし埼玉会館にて開催。終了後、長寿祝賀会(喜寿・米寿)及び新会員歓迎会を簡略し実施。

◇一日研修会

くわくわく大人の社会科見学

古代蓮の里・忍城・地下神殿

・六月十七日(金)

三年ぶりに、二十五名の参加で実施。

◇親睦旅行

大人の修学旅行「魅力満載の山梨」

・十一月二十日(日)二十一日(月)

三年ぶりに実施。紅葉狩り、温泉、美術館巡りで秋を満喫。

◇講師等紹介システムの構築

会員の専門的知識・特技や趣味を教育振興に寄与する事で構築。

◇うらわかい同好会活動

多くの同好会が自粛中ですが、

ゴルフ同好会等が活動中。

◇ホームページリニューアル

◇会誌「もくせい」発行

・十一月

三年に一度の会員の近況等を載せて発行(第十五号)

◇年末懇親会

・十二月十八日(日)

埼玉会館を会場に親睦を兼ねた年末懇親会を三年ぶりに開催。一年を締めることができました。

活動状況は「うらわかい通信」で報告したり、ホームページで紹介したりしています。班以外の方も、是非、検索してみてください。

業の延期や中止の措置を取らざるを得ませんでした。

一 定期総会

一堂に会しての会議は困難と判断し、総会要項を配布する紙上総会の形をとりました。

また、例年、定期総会終了後に開催される与野班退職校長教育懇談会も中止と致しました。

二 研修会

秋に開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染

拡大やインフルエンザとの同時流行の心配が重なり、やむなく、中止と致しました。

三 現職・退職校長教育懇談会

関係の皆様と協議した結果、コロナ禍での飲食を伴う事業は、健康・安全を最優先に考え、無理をしないほうがよいのでは

ということ、やむなく中止することと致しました。

四 その他

今年度より、さいたま市退職校長会において、各班の事

業交流を深めて行こうとの共通理解が図られました。当会では七月二十三日に開催された岩槻班主催の「日本人形の文化を学ぶ」の研修会に二名参加し、交流の素晴らしさを実感しました。

最近、すっかり見慣れたマスクですが、不便さも否めません。来年度こそ、こうした身近なこと一つ一つが変わることを願う次第です。

○大宮班 溝口 正己

【一堂に会して】

○五月二十八日、大宮退職校長会総会の実施。本年度は顔を合わせての総会に。コロナ禍三年ぶりである。出席者も多く準備した席が不足するほど。和気藹々として無事終了。会員は二百二十三名である。

【一致協力して】

新・旧理事会（四月）幹事会・理事会（六・九・十二・三月）広報部会（六・十月）研修部会（六・

九月）福利厚生部会（六・十一月）

美術展実施委員会（八・十二月）

【学びと親睦の集い】

○九月二十一日「さいたま市の人権教育の現状と課題」について十一名が研修に参加。市教委・人権教育担当主査の駒宮寿夫氏から、ヤングケアラーの現状等、身近な人権問題についての話を伺った。また、六十年ぶりに映画化された「破戒」の情報など提供して頂いた。研修内容は十二月

の理事会で報告された。

○十一月十六日、史跡巡り。大宮の「普門院を訪ねて」

十六名が参加した。会としては二度目の訪問であったが、大宮観光ガイド会の案内で新たに知ることもあり、有意義な訪問となった。大宮駅から現地まで、日々変化する街の様子に驚きながらの集いでもあった。

【同声は相応じて】

○第二十一回大宮退職校長会美

術展はコロナ禍で中止に。二年

続いで中止にコロナが下火となった夏、実施を望む熱心な声が上がリ、七月、開催の運びに。二十二回目の美術展となったが、これまでない多くの参加者があった。正に同声相応じる？の開催である。年が明け、恒例の美術展も一月三十日から一週間、大宮図書館で盛況の裡に終えた。

○岩槻班

岡野 功

さいたま市岩槻班退職校長会は、今年度三名の新会員を迎え五十名で、コロナ禍に配慮しつつ精力的に活動しました。

▽新たな研修会の立ち上げ

新規事業である企画研修会。本年度は「人形」をテーマに、二回の研修会を実施しました。

一『岩槻人形博物館のコレクションを通して日本人形の文化を学ぶ』

七月二十三日、二十三名（内

他班四名）が、学芸員の解説を受けながら、日本人形を中心に様々な人形の魅力や奥深さにふれることができました。

二『うさぎの木目込み人形を作ろう』

十二月四日・十一日の二日間、

二十三名（内他班六名）は、令和五年の干支であるうさぎの木目込み人形づくりを体験しました。講師の指導の下、作品作りに没頭し、全員堂々と自宅に飾

れる作品を仕上げました。

この二回の研修会で特筆すべきは、浦和班、与野班、大宮班から延べ十名もの方にご参加いただいたことです。貴重な交流の機会となったことに感慨一入です。ありがとうございます。

初めての企画研修会。会員相互、また他班の皆様と親交を深める有意義な研修会となりました。

▽日帰り研修会

十月二十一日、晴天のもと、

十六名で足利市に行きました。

足利氏の守り本尊大日如来を祀る饒阿寺と日本最古の学校足利学校。そして一教員が私財を投げうって設立したココ・ファーム・ワイナリー。楽しく有意義な一日でした。

囲碁、ゴルフ、グラウンドゴルフの同好会も活動は盛んです。



談話室

— 私の一言 —

ウォーキング

大塚 彰

て二十分程のところにある市の総合公園。公園の中にはジョギングコースが設定されており、距離も表示されているため、コースとして最適であった。雨天の日以外は毎日一時間半、距離にして約八キロメートル程歩く。

三年前、「運動不足の解消と健康維持・増進のために何かしなくては」と思い、意を決して市の施設であるスポーツジムに通い始めた。四ヶ月ほど経ち、トレーニングマシンを使つての運動に慣れてきた頃に新型コロナウィルスの感染拡大。その影響で、ジムの利用もできなくなつてしまった。順調にトレーニングができるようになってきたところだったので、残念無念。「コロナ禍でも続けられることはないか」と考えた。

三密の心配も無く、器具も使わずに手軽にできるウォーキングをしてみることにした。歩くコースは、自宅から歩い

恩師から

託されたもの

山崎 俊

退職した年のある日、自宅にいと「ピンポン」とチャイムが鳴った。玄関のドアを開けるとそこには私が小学校一年の時に担任していた森久子先生がニコニコの笑顔で立っておられた。これまでも先生は選挙の投票所では、立会人として仕事をされておられたので、久しぶりにお会いした感じではなかった。

先生は私に自分がこれまで自治会の仕事をしてきたこと、そして今後は私にその仕事を引き継いでもらいたいとおっしゃつた。私の大好きな先生からのお願いを断ることはできず、すぐにお引き受けした。次の会合の開催日時と場所を私に告げると帰って行かれた。そして当日、午前九時十分（指定された時刻の二十分前）に行くと言

に私を待つておられた。私に「二十分前には来るように」とおっしゃつた。新人の心得はこうでなければいけません。ということだった。

以来、十二年余りが過ぎた。森先生は既に鬼籍に入られてしまったが、それまでに交わした会話は楽しいものだった。洗面台にかがむと腰が痛いと言いつつ片足を載せる木の台を作つて差し上げてとても喜んでいただいたこともあった。

私は、今は自治会の副会長として広報、防災の仕事をさせていたでいて。毎月のお知らせ掲載の作成とホームページへの掲載。大地震が発生したことを想定しての会員全員が参加する「在宅防災訓練」の計画策定と実施を仲間とともにやっている。

森先生に身をもって教えていただいた、「人の為に生きる」ことをこれからも実践して行きたいと強く思っている。

総合公園には、池廻りコース・テニスコート廻りコース・多目的広場廻りコース・野球場廻りコース・公園外周廻りコースの五つのコースが設定されている。私は毎回コースを変えて歩き、目に映る景色の変化を楽しんでいる。どのコースも緑豊かな木々に囲まれ、春には桜やアジサイ等の花、秋には紅葉が目を楽しませてくれて、癒される。心も体もリフレッシュできて、最高だ。

心身ともに、いたって健康。

これもウォーキングの成果。四季折々の自然の美しさに触れながら、これからもポジティブに歩き続けていきたいと思う。

人生ぼーつと生きて いたいだけけれど

富樫 政宣

皆様、こんにちは。退職後は「ただぼーつと過ごしていたい」という気持ちでいっぱいでした。

しかし、そのような気持ちは簡単に打ち砕かれました。

それは、学校地域連携コーディネーターとして勤めた学校の数学の授業参観がきっかけでした。

この学校では、中学三年生の数学に一年間「確率」だけを学び通すというカリキュラムがありました。きっと確率を苦手とする生徒が多かったからでしょう。私自身、学生時代確率は苦手でした。

いざ授業を参観すると、参観者という立場を忘れ、問題を解くことに夢中になってしまふのです。なにも賭け事とか投資とか確率論などへの興味関心がきっかけではありません。

ただ、中学・高校で学んだちまちまとした内容の「場合の数確率」の問題を解いてみたいという純粋な気持ちなのです。

でもようやく解けたとしても数日経つと同じ問題でも解けないのです。解き方が全く分かっていないのです。解き方を忘れたのは年のせいだと言いつつ、そののですがそうはいきません。

なぜなら、その原因として解き方の基本概念というものを深く理解せずに分かったつもりでいただけだったことに気づいたからです。この年になって自分の能力の低さと不甲斐ない性格に呆れるばかりです。

以来、時間があれば「場合の数 確率」の解法に挑んでいきます。それはこの年になっても自分の頭の中で何度も考え、咀嚼やくして確実に考え方を自分のものにするという姿勢を身に付けたいと願うからです。

「ぼーつと生きてんじゃねーよ！」と自らを戒めながら。

朝の交差点

笹原 秀之

朝、信号のない交差点に立ち四方から登園してくる親子を迎える。

横断歩道を渡るときは、止まってくれた運転手に手を挙げながら、子どもが早く安全に渡るよう促す。運転手には丁寧に頭を下げ大きな声で「ありがとうございます。」を伝える。ごついお兄さんもいれば物を食べながら運転している人もいる。無表情な人も多いが構わない。中には相手も頭を下げてくれる人もいて心癒される。

横断歩道での歩行者優先義務はもとより、歩行者とドライバーとの気持ちを通うことにより温かい気持ちになる。私もすっかりお礼を言うことで少しでも気持ちよく運転手が安全運転をして出勤できることも陰ながら祈っている。

地域の方々とも丁寧に挨拶をする。顔を合わせる回数が増えたと相手から先に挨拶をされたり話しかけられたりすることも多くなる。通りがかりの方にも挨拶をする。なるべく気持ちよく通勤・通学できるような気持ちを込める。

登園の集中する時間は十五分程だが、常に四方の状況を確認して安全に渡らせたり挨拶をしたりして瞬時に動いてコミュニケーションをとる。時には走り、回転して、ジャンプして、まるで踊っているのではないかと錯覚する。自らの脳が盛んに動きシャキッと目覚める。人がいない間には、さらにストレッチをして体も整える。集中力が増す濃い時間。自分の健康や老化防止にも役立つている。

そして一日が始まる。「今日も頑張るぞ。」



愛犬・小太郎

山崎 和文

十七歳になった我家の甲斐犬小太郎は、朝の八時頃になると玄関口に出て来る。毎日、動物病院で点滴をしてくるのである。

四か月前より、ほとんど食べなくなり筋肉が減り、ゴツゴツと骨が目立ってきた。十キロ近くあった体重も徐々に減り、今は七キロしかない。朝の散歩だけは、辛うじて歩き、なんとか持ち耐えている。

動物好きの妻が、長男の嫁の実家から頂いたのである。両耳が垂れ、黒々と可愛い小犬だった。成長するにつれ徐々に両耳はピンと立ち、赤茶と黒が混ざった虎模様の凛々しい姿の中型犬になって、我家の頼もしい家族の一員となった。

小太郎は、警戒心が強い。外部の人が敷地内に入ってくるものなら、猛烈に吠えまくるのである。また、日光霧降りの滝

では、シカを追いかけ急な斜面を上ったり下りたりしたものである。四年前に亡くなった、パグ犬・ランプも一緒に飼っていた。

小太郎より三才お兄さんであるが、実に仲良しだった。散歩中ランプが他の大きな犬に吠え襲われそうになると、猛然と立ち向かっていった。野原で、ランプを放すと気の向くままどこかへ行ってしまいうこともあったが、そんな時、小太郎に命じると連れ戻してくれたものである。すっかり年老いてしまった小

太郎は、今でも通院から帰宅し先に家に入っても、私が入って来るまで玄関で待っている。

誠に忠実で、状況に合わせて自分で判断できる賢さと強さを兼ね備えている。朝の散歩中でも優しい小太郎はみんなに可愛がられている。小太郎に会えるのを励みに散歩に来る人、首輪につけるライトをくれる人、毎日餌くれる人等……。(令和四年十一月記)

四十七年ぶりの卓球

菊地 豊

今年度もあと僅か、一番嬉しかったことを題名にしました。

昨秋、四十七年前の最初の卒業生から転居通知があり、それをきっかけに、当時の女子卓球部員三名と再会しました。私七十二歳、彼女達六十二歳。お互い、歳をとりましたが、二度目は「卓球をしよう」と体育館を予約し、四十七年ぶりの卓球を楽しみました。四人とも、ペンホルダーで、昔のまま。其々と一〇〇球ほどラリーをしました。実際は、昔話に花が咲き、卓球時間は予定の半分の六十分余りでした。それでも私には貴重な嬉しい一時でした。

私にとって、卓球は、教職を志した大きな要因の一つでした。私の卓球は父から教わりました。中学校で卓球部に入り、いつの日か、父を超えた時の喜びと悲しさを覚えていきます。私の卓球

歴は中学時代だけでしたが、卓球が好きだったようです。就職選択の時も、「卓球が身近にある職業↓教職希望」が、大きな励みになっていたと思います。

それだけに、初任の植竹中学校での卓球部顧問は最高でした。教科指導、生徒指導、校務分掌等、課題は山積していましたが、卓球にかけた時間と情熱は半端ではなかったと思います。その甲斐もあり旧大宮市内での男女団体優勝、県大会男子団体3位、個人的には、埼玉県教職員大会個人第三位は嬉しい思い出です。

卓球は生涯スポーツです。いつでも誰でも気軽に楽しめます。しかし、この機会を取り換えた卓球ラバーが意外に高く、取扱が専門店に限られて驚きました。日本チームの活躍で、卓球が少しメジャーになったことは喜びですが、卓球は多くの人ができる手軽さが魅力だと思います。ピンポンの響きを大事にして長く卓球を楽しみたいものです。

地域の自治会活動と 野菜作りに日々奮闘

小島 和男

定年退職後、学校地域連携コーナーディネーターとしての再任用期間を終え、現在は学校現場を離れ、地域の自治会活動と野菜作りの見習いとしての生活に日々奮闘しています。

自治会活動は、退職後に近所の役員さんからの協力依頼を機に、今までお世話になった地域の皆さんのために少しでもお役に立てればと思いい、役員となり活動して六年目となりました。

主な活動内容は、グラウンドゴルフ大会、敬老祝賀会、環境整備活動、防犯・防災対策等の企画・運営、更には講演会等への参加です。また、自治会長となつてからは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を優先した厳しい状況での自治会活動。更には、道路の修復整備、街灯やカーブミラー設置要望等の相

談窓口となり、行政に繋ぐ役割も担っていますので、活動は多岐にわたり、結構大変です。

もう一つは、八十六歳の義父母が長年管理してきた農地を近い将来私が何とかしなければと思いい、一昨年から義父母にいろいろと教わりながら野菜作りの見習いとして頑張っています。

栽培する野菜は、市場に出荷する春・夏・秋・冬の葱、山東菜、白菜、更には家で食べるキュウリ、なす、大根、枝豆、キャベツ等、多種にわたります。野菜作りは、種まきから植えつけ、そして収穫までの期間、自然環境に左右されるので、日常の細やかな観察を基に、その時々追肥・水やり・消毒・除草と適切に対応しないと品質の良い物はできません。生育状況に合わせて適宜判断して行い義父の野菜作りのノウハウは凄いなと思心することばかりです。私も早く、自分だけで美味しい野菜が作れるように日々勉強中です。

奉祝 叙勲受章者〔令和4年度〕

春の叙勲	鈴木 光二 氏 (岩槻)	瑞宝双光章 受章
------	--------------	----------

慶祝 ご長寿者〔令和4年度〕(敬称略)

米 寿 満 88 歳	西村 皓 (浦和)	齊藤 知子 (大宮)	廣井 正明 (大宮)
傘 寿 満 80 歳	奥秋 義貫 (浦和) 鎌田 潔 (岩槻)	竹本 昭剛 (大宮)	戸張 康信 (岩槻)

編集後記

会報第37号をお届けします。令和二年から、新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分な注意を払い、生活や活動を制限してまいりましたが、今年度はウィズ・コロナという観点で少しずつ従来の生活や活動に戻りつつあります。引き続き、皆様のご健康、ご多幸をご祈念申し上げます。今回も多くの皆様からの貴重な玉稿をお寄せいただき、誠にありがとうございました。これからも多くの会員の皆様方からの貴重なお声をお待ちしております。

(広報担当幹事 千葉 和博)